

釜石の歴史

よもやま話

5

歴史のさんぽみち編

(2)

問い合わせ
市文化振興課 27-5714

釜石に眠る遺跡

縄文の道具①

大木式土器は釜石でも多く見られ、釜石が東北地方に広がる巨大な文化圏に属していたことを示しています。

今回は釜石市内の遺跡で最も遺物が多く見つかる縄文時代にスポットを当てて紹介します。縄文時代は約1万2千年前から始まり、縄目模様を付けた素焼きの器「縄文土器」を使用することからそう呼ばれています。縄文土器は、模様や形状から時期を判定し、地域性や文化などを表す指標となります。市内で発見された最も古い土器は、今から9千年以上前の縄文時代早期のもので、栗林の沢田2遺跡の他、箱崎や平田などでも発見されています。



野川前遺跡（箱崎）出土の大木式土器



しもへいた に たしろ
下平田遺跡・仁田代遺跡（下平田）
出土の石鏃と石匙

また、金属がない縄文時代には、石を使った道具「石器」が広く用いられました。ガラスのように鋭く割れる石を選び、加工する技術に長けていたのです。弓矢の先端に用いる「石鏃」や「石匙」と呼ばれるナイフなど、精巧に作り上げられた石器はバラエティに富みます。また、木の実をすりつぶすための磨石や、木を切るための石斧なども作られました。この他、自身を着飾るためのアクセサリーや祈りのための祭祀具など、生活に必要な道具を石器として用いていたのです。いずれも釜石市内の縄文時代の遺跡から出土し、縄文時代の人々が身近にある素材を利用して生活していたことが分かります。

鳥谷坂・女坂・石塚峠・鎌台峠

「歴史の道百選 浜街道」

令和元年10月、釜石の鳥谷坂、女坂、石塚峠、鎌台峠を含む「浜街道」が、文化庁の「歴史の道百選」に選ばれました。浜街道は気仙沼から八戸に至る街道で、往古より人や物、情報を運ぶ舞台となっており、現在は国道45号にその機能が移っています。浜街道の名称は、明治以降に定着したもので江戸時代は海辺道などと呼ばれていました。旧道には現在も石碑や一里塚、切通しなどが残っています。

〇鳥谷坂

浜町から水海に通じる山道で、江戸時代に建立された石碑が残り、一字一石供養の石仏などがまつられています。水海側の登り口では追分の碑「石八山道 左ハ釜石道」が土中から発見されました（市郷土資料館にて展示中）。



女坂
女坂石の証文



鳥谷坂
一字一石供養の石仏

〇女坂

燹石から平田に越える山道で、江戸時代に設置された「女坂石の証文」や「女坂の一里塚」が所在します。

〇石塚峠

江戸時代、盛岡藩平田と仙台藩唐丹の藩境をまたぐ山道で、藩境塚と「石塚峠の藩境印杭」が設置され、ふもとには両藩の御番所（平田御番所跡・本郷御番所跡）が置かれていました。道中には江戸時代に設置された「石塚峠の七里塚」も所在します。

〇鎌台峠

下荒川から吉浜に通じる山道で、俗に気仙八坂と呼ばれる坂の一つです。頂上には道祖神がまつられています。※太字は全て市指定文化財（詳細は郷土資料館のホームページをご確認ください）



鎌台峠
道中の切通し



石塚峠の七里塚



釜石市郷土資料館

